

富士工場に無人ライン化構想

ポラテック



ラインからの搬出用に導入されたロボット（坂東工場）

16年は122万坪加工実績で14%増

ポラテック（埼玉県越谷市、中内晃次郎社長）は、富士工場の2期工事として無人プレスカット工場の建設構想を明らかにした。同社は、プレスカットラインの搬出部分に産業用ロボットを設置し省人化に向けた検討をしてきたが、富士工場の第2工場としてラインへの投入と搬出、梱包などの部分をロボット化し、労働力不足への対応を進めていく考えだ。

同社はプレスカットの最大手で、坂東、東北、富士、滋賀の4工場に加え、2017年は6月稼働の計画で唐津工場の建設を進めている。唐津工場が完成すると、構造材の加工能力は5工場で16万6000坪になる。さらに富士工場の2期工事として、まずは工場棟の建設を進め、その後ラインを設置していく。ロボット化については16年3月に、坂東工場の柱ラインの搬出に産業用ロボットを設置、11月末に2号機も設置した。滋賀工場の合板搬出部にもロボットを設置、12月の羽柄材加工実績は11万754坪と5カ月連続で11万坪を超え、年間では122万4180坪

で前年比14・2%増となった。12年度の羽柄材加工は7万1794坪、合板加工は5万5242坪だった。昨年末は11月21日で受注制限を解除したが、増加した受注をこなしきれず、さらに年末に集塵機の故障があったため約100棟分の納期遅延が生じた。加工がずれたことで1月度も引き続き稼働は好調を維持している。